

【A年】

復活節第四主日

永遠の契約の血によってよい羊飼いの主イエス・キリストを死人のうちからよみがえらせられた平和の神よ、どうか、わたしたちをみ旨にかなう者とし、み前に喜ばれるすべての良い業を行わせてくださいますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

神学校のため

神よ、あなたはみ民を召して主の尊いみ業に仕える者とし、聖霊によってその生涯を清めてくださいます。どうかみな名によって建てられた神学校、ことに聖公会神学院・京都ウイリアムス神学館を顧み、教師、職員、学生を祝福し、召された召しにかなう知識をひたすら求めさせ、常に主の教えに従い、その務めを全うすることができましますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第六章一節から」

1 そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。2 そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。3 それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」5一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンテイオキア出身の改宗者ニコラオを選んできて、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。

7 こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。8 さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業としるしを民衆の間で行っていた。9 ところが、キレ

ネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。2そこで、ステファノは言った。

51 「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。52 いたい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。53 天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

54 人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かつて歯ざしりした。55 ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、56 「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。57 人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、58 都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。60 それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第三編

- 1 主はわたしの牧者＝ わたしには乏しいことがない
神はわたしを緑の牧場に伏させ＝ 憩いの水辺に伴わ
- 2 れる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ＝ みなゆえにわたしを正しい道に導かれる
- 4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れな
い＝ あなたがわたしと共におられ、あなたの鞭と杖
はわたしを導く
- 5 あなたは敵の見ている前でわたしのために食卓を整え
＝ わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされ
- 6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い
＝ わたしは永遠に主の家に住む

使徒書

朗読者 「使徒書はペトロの手紙Ⅰ 第二章十九節から」

19 不当な苦しみを受けることになっても、神がそうお望みだとわきまえて苦痛を耐えるなら、それは御心に適うことなのです。20 罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れになるでしょう。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。21 あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。

22 「この方は、罪を犯したことがなく、

その口には偽りがなかった。」

23 ののしられてものしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。24 そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。25 あなたがたは羊のようにさまよっていました。今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十章一節以下に記された主

イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 「はっきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。2 門から入る者が羊飼である。3 門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。4 自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立つて行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。5 しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」6 イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。

7 イエスはまた言われた。「はっきり言っておく。わたしは羊の門である。8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。」

9 わたしは門である。わたしを通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つめる。10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにはかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」